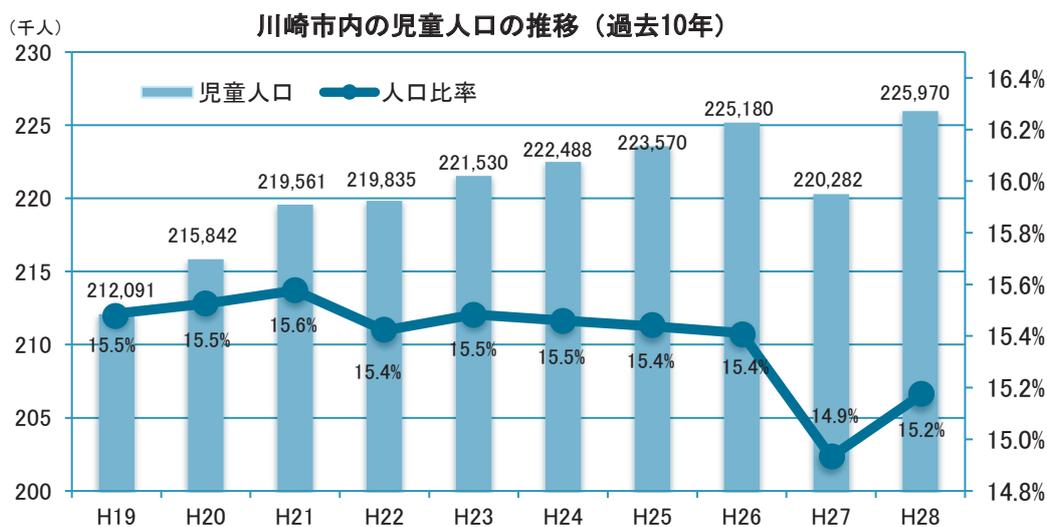


1 川崎市における子どもをめぐる現状

I 子どもの人口の推移

(1) 市内の児童人口

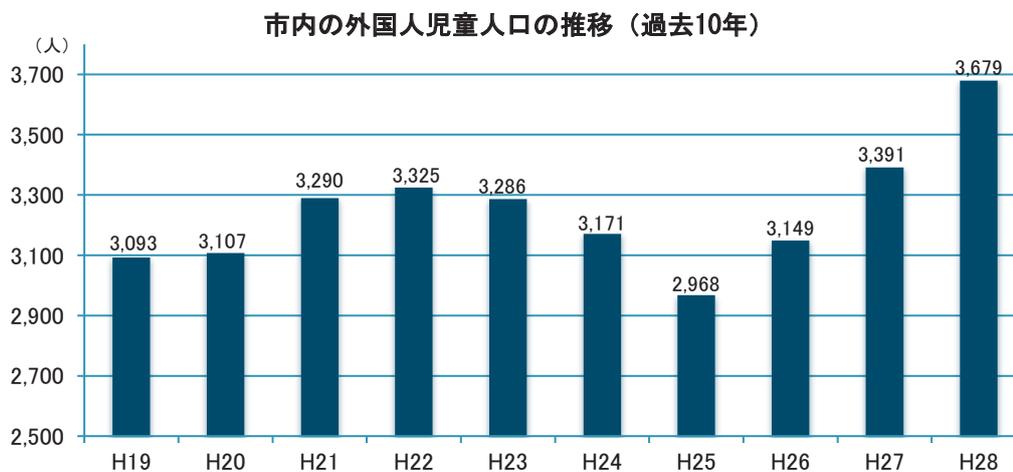
図 15



出典：川崎市年齢別人口（各年10月1日現在の数値。児童人口は18歳未満）

(2) 市内の外国人児童人口

図 16



出典：川崎市管区別年齢別外国人登録人口（各年6月末現在の数値。児童人口は18歳未満）

II 子どもの権利に関する実態・意識調査（平成26(2014)年3月実施）から

「川崎市子どもの権利に関する実態・意識調査」は、子どもの権利施策の進行状況を検証するために3年ごとに行う調査です。平成26(2014)年に5回目の調査として、子どもの権利条例の認知度や子どもの生活実態（相談・救済、参加、居場所等）について実施しました。

【調査概要】（アンケート調査）

○調査対象 3,500人（川崎市内に居住の市民と市立施設等の職員）

- ・子ども（満11～17歳） 2,100人
- ・おとな（満18歳以上） 900人
- ・職員（市立施設等） 500人

○調査期間 平成26(2014)年3月（郵送により実施）

○回収結果 1,296票（回収率37.0%）

- ・子ども 714票（34.0%）
- ・おとな 307票（34.1%）
- ・職員 275票（55.0%）

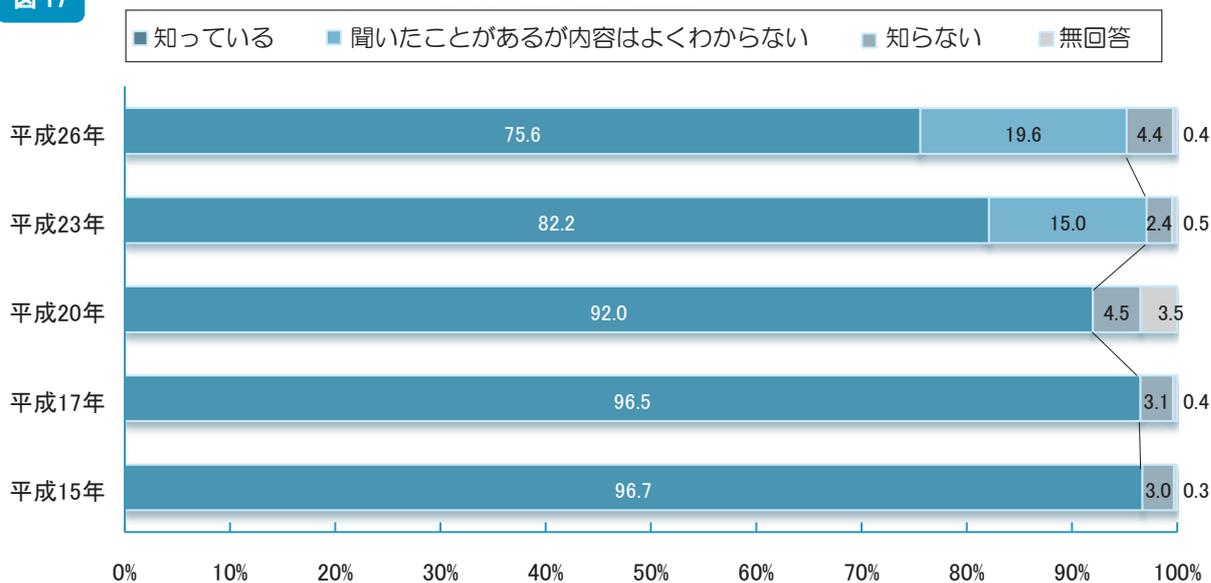
（1）子どもの権利条例の職員の認知度

条例を「知っている」と答える職員（認可保育園、こども文化センター、学校等）の割合は低下傾向にあります（図17）。

（子どもとおとなの認知度は、P.6参照）

図17

条例の認知度（職員）



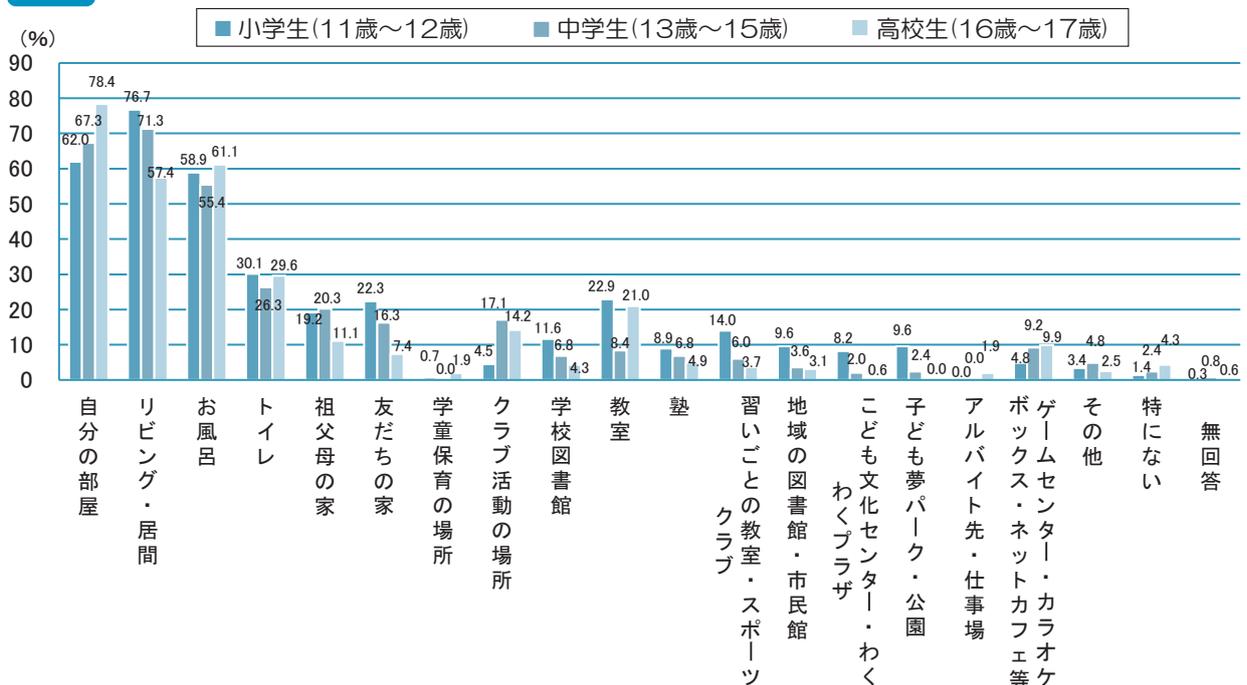
（注）平成15～20年の調査では、「知っている」「知らない」の2択

(2) 居場所について

子どもがホッとできる場所として、小学生世代で最も回答の割合が高かったのは、「リビング・居間」の76.7%で、次いで「自分の部屋」62.0%、「お風呂」58.9%でした。中学生世代で最も回答の割合が高かったのは、「リビング・居間」の71.3%で、次いで「自分の部屋」67.3%、「お風呂」で55.4%でした。高校生世代で最も回答の割合が高かったのは、「自分の部屋」の78.4%で、次いで「お風呂」61.1%、「リビング・居間」で57.4%でした（図18）。

図 18

ホッとできる場所はどこか(複数回答)



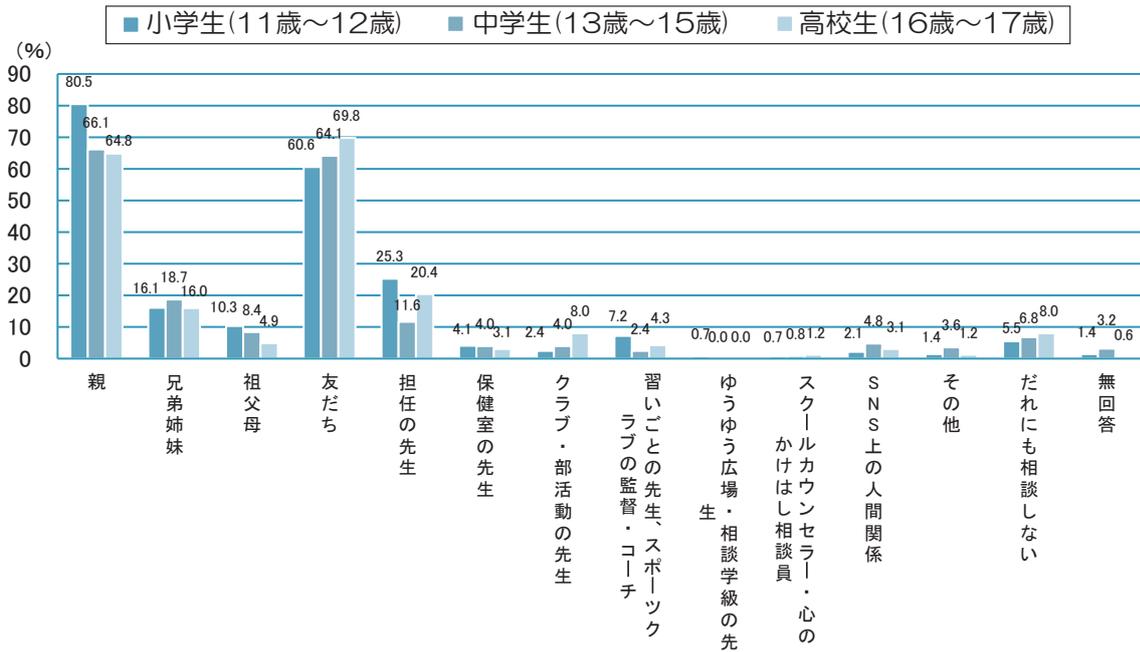
(3) 相談相手について

困ったり悩んだりしたときの相談相手として、年齢別に見ると、小学生世代で最も回答の割合が高かったのは、「親」で80.5%、次いで、「友だち」で60.6%、「担任の先生」で25.3%でした。中学生世代で最も回答の割合が高かったのは、「親」で66.1%、次いで「友だち」64.1%、「兄弟姉妹」18.7%でした。高校生世代で最も回答の割合が高かったのは、「友だち」で69.8%、次いで「親」64.8%、「担任の先生」20.4%でした。

「だれにも相談しない」という回答は、小学生世代で5.5%、中学生世代で6.8%、高校生世代で8.0%と年齢が上がるにしたがってわずかながら増加しました（図19）。

図 19

困ったり悩んだりしたとき、だれに相談するか(複数回答)



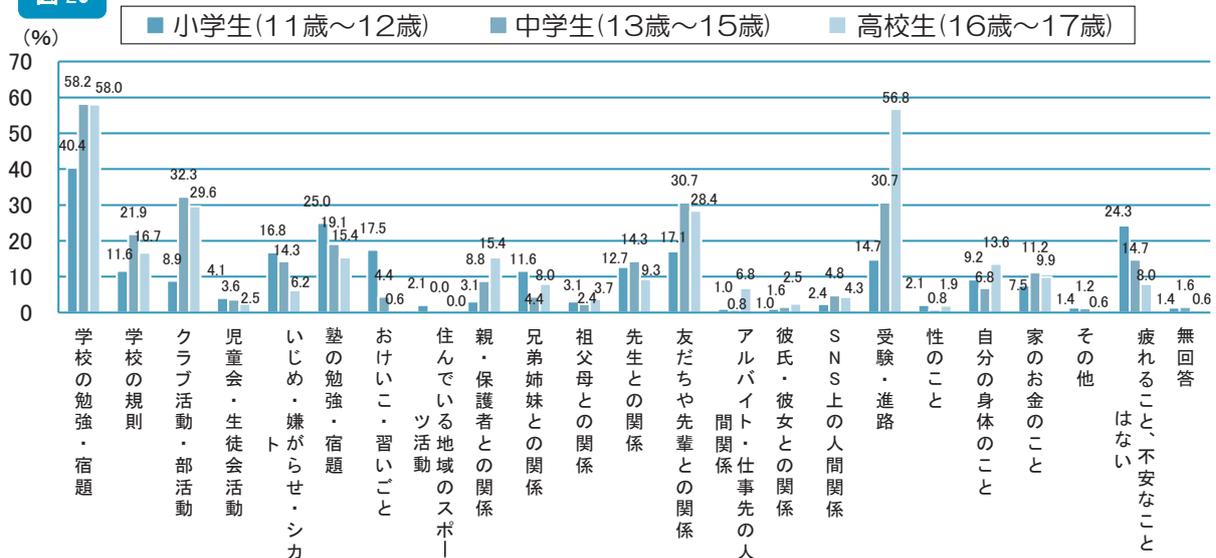
(4) 疲れること、不安に思うことについて

子どもに対し、疲れること、不安に思うことはあるかとたずねたところ、小学生世代で最も多い回答は「学校の勉強・宿題」の40.4%で、次いで「塾の勉強・宿題」25.0%でした。中学生世代で最も多い回答は「学校の勉強・宿題」が58.2%で、次いで「クラブ活動・部活動」32.3%でした。高校生世代で最も多い回答は「学校の勉強・宿題」58.0%で、次いで「受験・進路」56.8%でした。

「疲れること、不安なことはない」という回答は小学生世代が24.3%で、疲れや不安を感じる子どもは、中学生・高校生に比べて少ないという結果でした(図20)。

図 20

疲れること、不安に思うことは何か(複数回答)

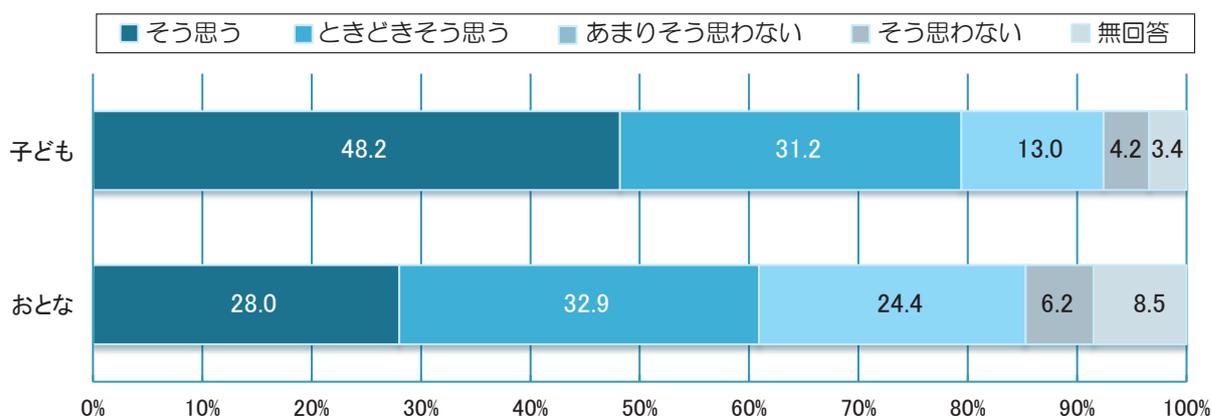


(5) 文化・国籍等の違いについて

子どもへの個別の支援について、生活のなかで文化・国籍等の違い、障害のあるなしにかかわらず、子どもは大切にされていると思うか、という質問に対し、子どもが「そう思う」「ときどきそう思う」と回答した割合は79.4%でした。一方で「そう思わない」という回答は4.2%でした。大人が「そう思う」「ときどきそう思う」と回答した割合は60.9%でした。一方で「そう思わない」という回答は6.2%でした（図21）。

図 21

生活のなかで文化国籍等のちがひ、障害のあるなしにかかわらず、大切にされていると思うか

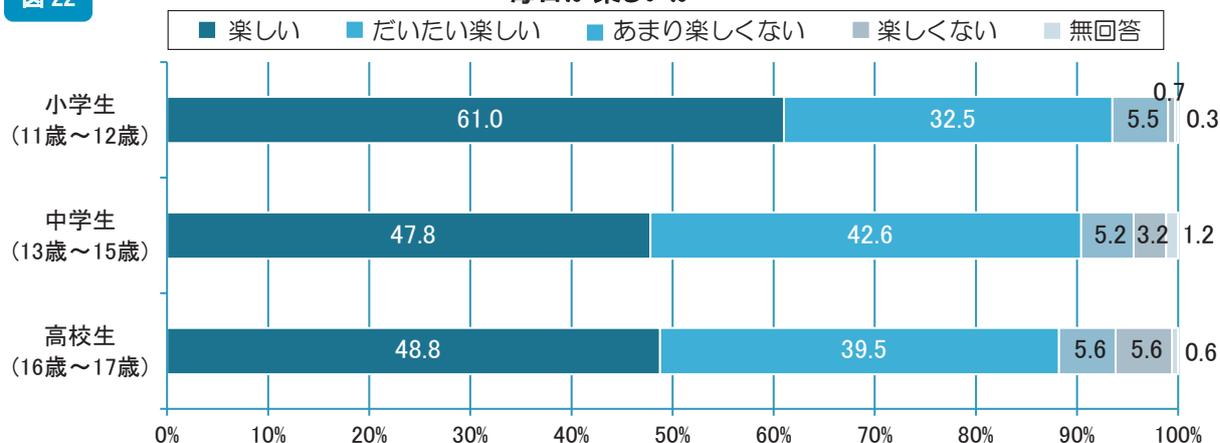


(6) 毎日が楽しいか

毎日が楽しいかという質問に対し、「楽しい」と「だいたい楽しい」を合わせた回答は、小学生世代が93.5%、中学生世代が90.4%、高校生世代が88.3%で、年齢が上がるにしたがって減少しています（図22）。

図 22

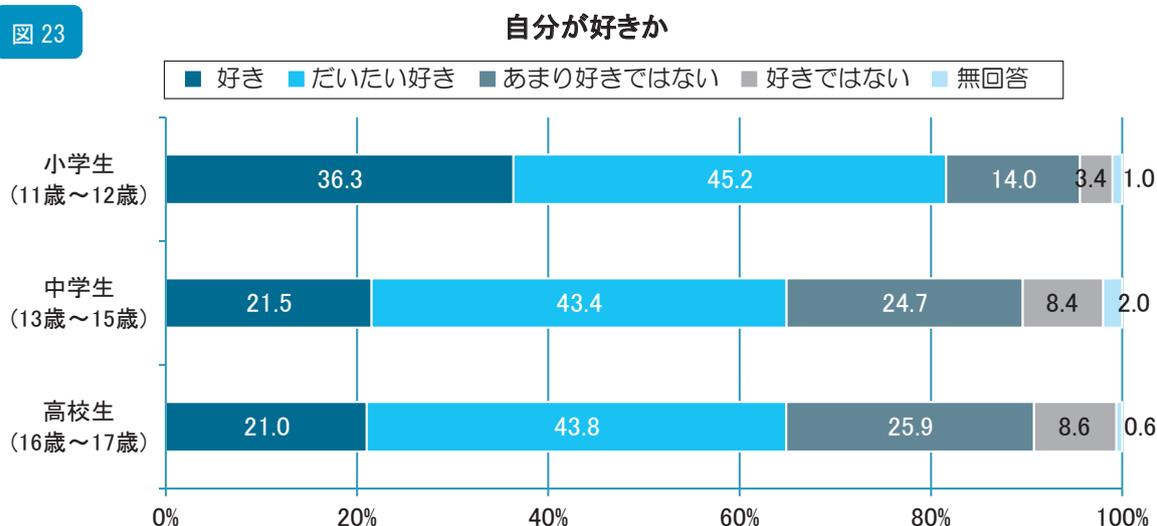
毎日が楽しいか



(7) 自分が好きか

自分が好きかという質問に対し、「好き」と「大好き」を合わせた回答は、小学生世代が81.5%、中学生世代が64.9%、高校生世代が64.8%で、年齢が上がるにしたがって減少しています（図23）。

図 23



(8) 子どもが安心して、自分らしく生き、社会に参加しながら成長していくには、どんなことが大切か **自由記述** ※表記は原文のままです。

- ・大人が子どもの意思や性格を尊重し、認めてあげることで子どもには自信がついて、自分らしさを大切にできるようになると思う。(11歳)
- ・だれかにそうだんしたり、いやなことは、いやと言ったりしてはっきり、自分でも自分を守るということが大切だと思います。(11歳)
- ・やりたい事があっても、親の収入などで、習い事や行きたい学校にチャレンジする事ができず、あきらめなければならない現実!! いろんな経験を出来る環境作りをお願いします。(12歳)
- ・「子供だから」と無視されるのではなくちゃんと話を聞いてくれる人も必要だと思います。子供ならではの視点で気付く事、思う事を大切にするのは子供が社会に参加する第一歩だと思います。(11歳)
- ・大人にも「子どもの権利」についてもっと興味を持ってもらい、知ってもらうことが大切だと思う。「子どもの権利」を大人や親が知らなければ権利は守られず、子どもは安心して自分らしく生きられないと思う。(12歳)
- ・いじめにあったり、だれかにひどい事を言われても、勇気をふりしぼって、おやに「こういうことがあった」という事を、ちゃんとやった方がいいと思いました。学校の先生に相談したり、おなやみ相談という、しせつみたいな所もあるので、そこに電話をしたら、いいと思います。私は、自分らしく生きているので成長したと思いました。(11歳)

- 楽しいとか思える場所がたくさんあること。一人になれて一人のじかんが満足できる場所があること。(11歳)
- 小学校では子供が「つくる」授業時間をつくったら良いと思う。なぜなら1人1人が自分の考える、つまり個性の表れでる行事になると思うし、また、思考力を豊かにするだけでなく、「いつも先生の授業をよく見て受けよう」(授業をつくるにあたって)と意識を高めることもつながりそうだからだ。(12歳)
- 人とくらべないで、のびのび育つことのできる環境を作ることが大切だと思いました。私も、勉強のこととかを親に他の人とくらべられるととてもいやだし、自分なんて…という気持ちになります。1人1人とくちょうがあって当たり前なのだから、人目を気にせずみんなが生きられるようになれば、すごく成長していけると思います。(13歳)
- 学校や家で自分をおさえることなく、自由にすごせる環境や雰囲気が必要だと思う。また、いじめやからかいのない、心がやすらぐような空間で日々を過ごすべきだと思う。(15歳)
- 選択の幅、将来への道を広げられるような教育をするべきだと思います。一人一人の幸せを考えて、一人一人が人生を選べるようにすることが大切だと思います。(14歳)
- 条約とか決まりがあっても知らなければ何の意味もないので、もっと知ることが大切だと思います。(16歳)
- 大人からではなく、子どもから少しずつ社会に参加していけば自分の未来がしっかりと見えて成長したことが社会に出た時に繋げられる。そんな事が大切なのではないのでしょうか？(17歳)
- 1番大切なのは周りから大切にされている事を自覚して自分に自信を持つ事。自分が大切にされていないと思って私は母や先生・友にどこかしらで絶対に大切にされていると思います。(14歳)
- 悩み事を真剣にきいてくれる人が必要で、学校でも「こうすべきだ」と思わないで、個人を大切に、必ず理由をきいてくれる先生がいると安心できると思う。(14歳)
- 子供が心配になるようなことを大人が言わないこと。大人自身も楽しくすごしていると、子供も安心して過ごせると思います。(15歳)

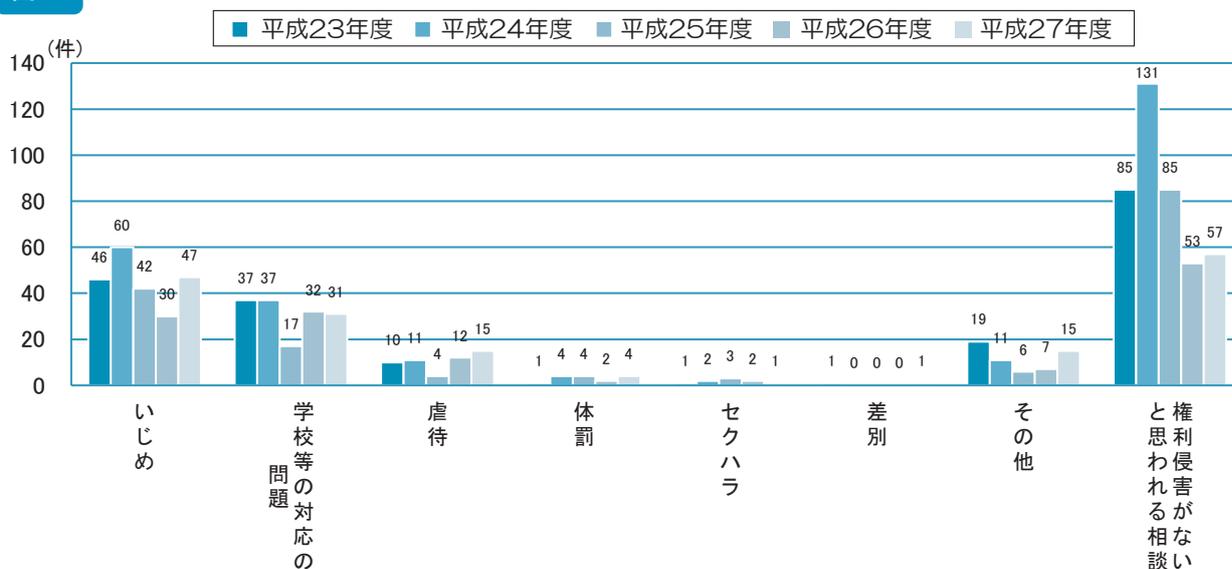
Ⅲ 人権オンブズパーソン報告書から

(1) 相談内容の推移

過去5年間における人権オンブズパーソンにおける相談では、権利侵害がないと思われる相談を除くと、平成26(2014)年度以外はいじめに関する相談が最も多く、次に学校や施設等の対応の問題に関する相談が続いています(図25)。

図25

人権オンブズパーソンにおける子どもの相談内容の推移



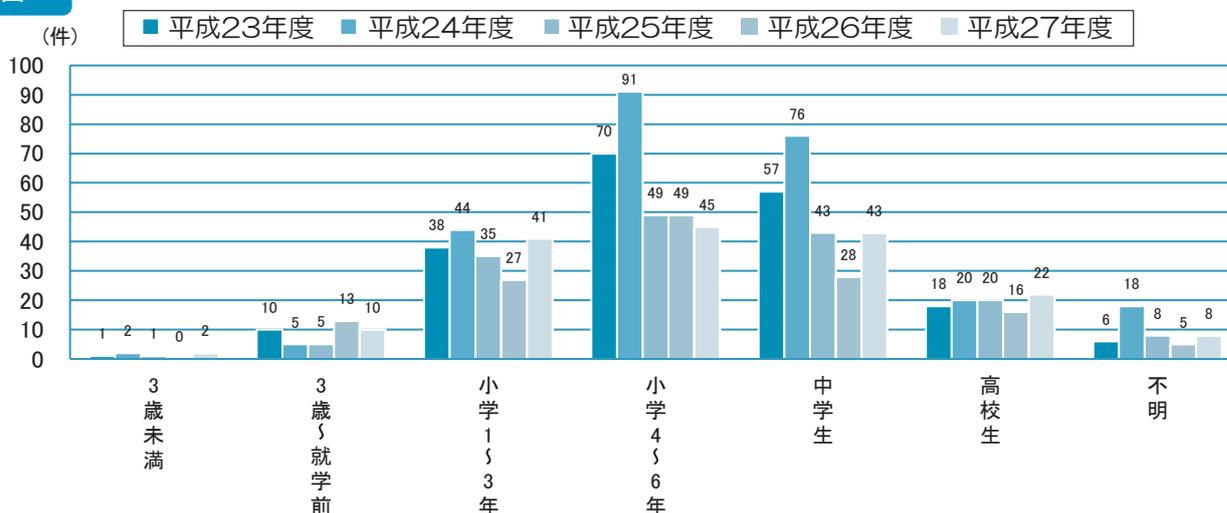
※相談の内容は、相談受付時の訴えに基づいて分類しています。

(2) 相談の年代別推移

相談の対象となった子どもを年代別で見ると、小学生から中学生の相談が多くありました(図26)。

図26

人権オンブズパーソンにおいて相談の対象となった子どもの年代別推移



(3) 救済の申立て受付状況

人権オンブズパーソンでは、権利を侵害されたと思われる者はもとより権利を侵害したと思われる者や、関係機関等に調査を行い、必要に応じて調整を図るなどの救済活動を行っています。平成27(2015)年度の子どもの救済申立て件数は3件で、全て学校等の対応の問題に関するものでした。

平成27(2015)年度 人権オンブズパーソンにおける救済の申立て受付状況

	種別	申立ての内容※	申立・調査開始	終了	活動回数
1	子ども	学校等の対応の問題	27年4月	27年6月	22回
2	子ども	学校等の対応の問題	27年6月	27年10月	46回
3	子ども	学校等の対応の問題	27年6月	27年10月	23回

※「申立ての内容」は申立て時の申立て内容に基づき分類しています。

出典：川崎市人権オンブズパーソン 平成27年度報告書